

武蔵野



武蔵野支局 〒180-0006
 武蔵野市中町1の13の1 3F
 電話 0422(51)3131
 FAX 0422(51)3133
 musasino@yomiuri.com
 都内版編集室
 電話03(3217)1465・1466
 江東支局 電話03(3631)6116
 立川支局 電話042(523)4477
 ホームページ
 www.yomiuri.co.jp/local/

購読は
0120-4343-81

【広告】読売Palette
 03(6272)9027
 【折込チラシ】 0120-03-4343
 【読売旅行】 03(5550)0666

3月18日(金曜日)
 旧 2月16日<大安>

■ あすの暦
 通日 77
 月齢15.4
 (正午)



—東京標準—
 満潮 5.21
 17.10
 干潮 11.22
 23.39
 (大潮)
 日出 5.48
 日入 17.51
 月出 17.48
 月入 5.56

「雪おんな(YUKI-ONNA)」は、小泉八雲(1850~1904年)の「怪談(KWAIDAN)」(1904年)に収録された英語作品で、その舞台と起源(原話)は武蔵野です。

武蔵国のある村で、ふたりの木こりが吹雪に遭います。雪女が現れひとりを殺し、決して口外しないことを条件にひとりを助けます。助けられた男は美しい女と出逢い結ば

文人の武蔵野

雪おんな 舞台と起源

小泉八雲 ③



「雪おんな」の舞台とされる青梅市の「昭和レトロ商品博物館」には、雪女伝説についての展示コーナーが設けられている

れ、10人の子に恵まれ幸せな生活を送ります。しかしある晩、約束を破って雪女のことを妻に話してしまい、妻はこゝろが雪女だと告げ、去ってゆくという物語です。

自然現象の化身として書き記された雪女伝説は近世以前

からあり、八雲もそれを承知していましたが、八雲の「雪おんな」のように神秘的で優しく、怖い女のストーリーの記録は確認されていません。八雲によると、「武蔵の国、西多摩郡、調布村のある百姓が、その土地に伝わる古い言い伝えとして私に語ってくれたもの」が原話でした。当時の小泉家には15人の「使用人」がいて、そのうちの一人が西多摩郡の調布村(現在の青梅市)出身だったので、同様のストーリーを持つ民話や言い伝えの記録は、八雲以降に現れます。

「雪おんな」を異類婚姻譚だと考えてみましょう。まず、武蔵国の山間で、雪女が一目惚れをして相手の男は命拾いをします。次に、「江戸に向かう」道すがらの武蔵野で再

会したふたりは恋に落ちます。正体を隠した秘密の恋は、「万葉集」以来、武蔵野の専売特許でした。燃え上がったも添い遂げられるとは限りません。その意味でも「雪おんな」は武蔵野の物語だと言えるそうです。

(武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍)

おすすめの1冊

「小泉八雲集」(上田和夫訳)

14年に及ぶ日本での生活から生まれた怪談やエッセイを日本語に訳出して編まれた小泉八雲の作品集です。作品を通して八雲は、近代における靈的な日本の美しさを語っています。境界に着目し、細部に宿る非合理的で非西洋的な日本のすがたを適切に捉え、海外に紹介したのです。



(新潮文庫)